

事業報告書

事業名 「森林資源の魅力発信事業」



- 1 実施団体                    ゆめなりき
- 2 担当課                      農林課
- 3 実施時期                    平成29年6月5日～平成30年3月25日
- 4 参加者                      森林所有者・地域住民・事業者・若者・子育て世代
- 5 実施場所                    青梅市内山林及び市内施設
- 6 事業の目的                 青梅市内の半分以上ある63%の森林の魅力の発信
- 7 役割分担
  - 団体の役割
    - ・ 市内外の若者や子育て世代への呼びかけ
    - ・ 森林を利活用するイベントの運営
    - ・ 森林の魅力発信
  - 担当課の役割
    - ・ 市内遊休山林（放置林）の情報提供
    - ・ 私有林所有者とのマッチング
    - ・ 施設及び市有林の利用許可

## 8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

市内外の若者や子育て世代を中心に、森と人との繋がりを伝え、森林に対する意識を高め遊休山林の利活用を図れた。

## 9 目標達成

事業の目標：遊休山林の利活用をしながら、参加者、スタッフ一同、森や木に触れあい、体験活動を通じ相互交流を図るとともに、森林の魅力を感じてもらうことを目標とする。

また、その活動内容の情報を発信することを目的とする

目標の達成具合：遊休山林の利活用をしながら、参加者、スタッフ一同、森や木に触れあい、体験活動を通じ相互交流を図ることができ、森林の魅力を感じてもらうことができた。

また、その活動内容の情報をインターネット等を通じ、市内外多くの方に知っていただき、街と田舎の交流もできた。

## 10 事業の実施内容

- 6/5(月)以降より青梅市農林課とゆめなりきで、森林資源の利活用できる山林の選定。利用許可の申請・承認。

- 8/6(日)第1回目のイベント開催

青梅市成木7丁目の利活用できる山林（※以下 かみなりきの森）と木造施設を利用し、子育て世代を中心とした森のお仕事体験や、森のようちえん企画（なりきむらあそびの森）も盛り込み、森のお話、工作体験、流しそめん、川遊びなどを行った。

※総勢40名（参加者32名／スタッフ8名／農林課2名）



- 10/1(日)事業実施会場森林 整備

青梅市成木 4 丁目の放置山林（※以下 あまがさすの森）をスタッフメンバーで整備開始立ち枯れ木、雪折れ木などの、支障木の除去作業

※スタッフ 3 名



- 10/23(月)事業実施会場森林 整備

あまがさすの森、スタッフメンバーで台風 21 号の影響確認と、支障木の除去作業。

※スタッフ 2 名



- 10/29(日)第 2 回目のイベント開催

雨天のため、あまがさすの森から、会場をかみなりきの森の近くの木造施設に会場を変更。森のようちえん企画(なりきむらあそびの森)を中心に木の実や木材など森の恵みを活用したクラフト体験、森のお話を実施。

※総勢 26 名（参加者 16 名／スタッフ 7 名／農林課 3 名）





- 11/11(土) 事業実施会場森林 整備

あまがさすの森、スタッフメンバーで、支障木の除去作業。

会場の整備作業。

※スタッフ3名



- 11/23(木) 事業実施会場森林 整備

あまがさすの森、スタッフメンバーで、支障木の除去作業と、

山林内、遊歩道の開設作業

※スタッフ3名



- 12/10(日) 事業実施会場森林 整備

あまがさすの森、スタッフメンバーで、支障木の除去作業と、

山林内、遊歩道の開設作業

※スタッフ2名



- 12/17(日) 事業実施会場森林 整備

あまがさすの森、スタッフメンバーで、支障木の除去作業と、山林内、遊歩道の開設作業

※スタッフ4名



- 3/18(日) 第3回目のイベント開催

あまがさすの森にて、親子森林体験を実施。動物・自然観察、森あそび、プチ林業体験、森のようちえん企画(なりきむらあそびの森)も併設し、それぞれの参加者の興味ある分野ごとに、森林の魅力を発信した。

※総勢46名(参加者35名/スタッフ5名/農林課3名/講師3名)



## 11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	3	3
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

## 12 まとめ（今後の課題や改善点など）

- 雨天時のプログラムを考えると、施設が隣接している山林での、イベント実施が望ましい。  
（案：山林隣接の自治会館、空き家等の利用）
- 放置山林をフィールドにする場合、森林所有者からの情報提供や境界調査、隣接森林所有者への挨拶が事前に必要である。  
（案：青梅市内の森林所有者情報の集約化と境界情報の集約化）
- 今後、このような森林の魅力を伝えたり感じたりする企画は、増える傾向にあると思うが、経験者、指導者が不足している。  
（案：指導者育成）



### 13 その他

本事業を通じ、以下 3 つの動きが生じた。

- ① あまがさすの森、近隣住民との交流により、山林までの道が地域の方のご厚意により綺麗になった。木の小枝、ハチの巣等の除去。
- ② 1/27(土)開催された、成木地区教育環境等研究会 主催の「森林教育講座」のフィールドとして、あまがさすの森を活用してもらえた。  
成木小学校をはじめとする、成木保育園、青梅市立第 7 中学校との繋がりができた。



- ③ 東京都小学校社会科教育研究会の教職員をはじめとする方々が、小学 5 年生の社会科の授業「わたしたちの生活と森林（小単元名）」の授業内容の作成のため、1/8(日)、1/27(日)に分け、合計 40 名程の都教職員が、あまがさすの森に訪れた。普段あまり関わることはできない人たちとの交流ができた。また授業の最終日 2/23(金)には、世田谷区立等々力小学校で行われた研究発表会に招かれた。子供たちの意識の高さに驚いた。



以上